

• 角偉三郎



合鹿碗



耳碗



鉢溜漆



へぎ板



南大門膳



大盆



大盆



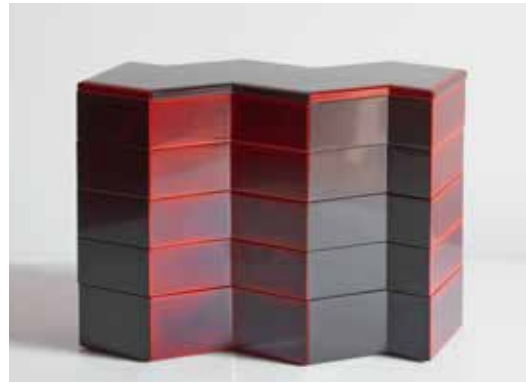
曲輪タキ桶



卓



五段重曲輪



五段重曲道



徳利 瓢形

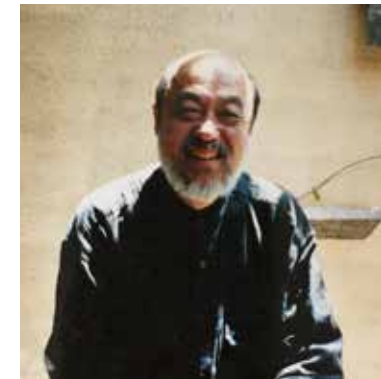
角 偉三郎 (かど いさぶろう) プロフィール



亀卓



二段長箱黒漆



平鉢



二段重 正方

1940年、石川県輪島に生まれる。
 1955年 中学校を卒業後、15歳で沈金師、橋本哲四郎の下に弟子入りする。
 1962年 修業を終え、第1回日本現代工芸美術展に入選
 1964年 日展に入選
 漆パネルなど、沈金の技を現代美術として表現した作品の発表を重ねる。
 1980年 漆のうつわを「大小問わず全部みな食器である」との考えのもとに角漆工房を設立
 1983年 すべての公募展から離れ、漆のうつわとしての可能性を探り、各地にて個展開催
 「合鹿椀」「だるま椀」などの名椀を世に送る。
 和菓子菜の花では1994年に個展初開催、うつわ菜の花では、'99'01'04'05に個展開催。
 2005年、65歳で逝去。

パブリックコレクション

外務省、国際交流基金、東京国立近代美術館、石川県立美術館、石川県輪島漆芸美術館、
 金沢学院大学、中京大学
 ヴィクトリア&アルバート美術館(イギリス)
 パリ民俗学博物館(フランス) ギメ東洋美術館(フランス)
 ベルリン国立東洋美術館(ドイツ) フランクフルト工芸美術館(ドイツ) ミュンスター
 漆芸美術館(ドイツ) バイエルン州応用美術博物館(ドイツ)
 イェール大学ギャラリー(アメリカ)